

平成20年6月27日

～ 京阪特急が約半世紀ぶりにお色直し ～

6月30日(月) 新カラーデザインの特急車両がデビューします

京阪電気鉄道株式会社(本社:大阪市中央区、社長:上田成之助)では、京阪ブランドの確立に向けたイメージ改革の一環として、京阪グループブランド戦略のカラーデザインコンセプトに則り、京阪線車両の塗装変更を進めています。この度、8000系特急車両1編成の塗装変更が完了し、6月30日(月)から営業運転を開始します。

当社の特急用車両のカラーデザインは、昭和26年(1951年)に上半分が黄色(マンダリン・オレンジ)で、下半分が赤色(カーマイン・レッド)に定まってから約半世紀にわたり、変更することなく現在に至っています。新たな特急色は上部を赤色(エレガント・レッド)、下部を黄色(エレガント・イエロー)とし、赤色と黄色の間に金色(エレガント・ゴールド)の帯を配し、十二単や紅葉、祝祭、金時絵などエレガントなイメージを連想させるカラーデザインに仕上げました。さらに、塗装変更にあわせ、車内のシートもリニューアルしています。

また、中之島線が開業する10月19日(日)から営業運転を開始する、新型車両3000系も順次、寝屋川車両工場への納車が進んでおり、今後、京阪本線内での試運転を行うことにしています。なお、既に1編成が営業運転を開始している一般車両の塗装変更も含め、京阪線全車両のカラーデザインの変更完了は平成24年を予定しています。





3000系 新型車両



新カラーデザイン車両 ラインナップ

- 左から 3ドア・ロングシートの一般車両（1編成が営業運転中）
2ドア・クロスシートの特急用車両
3ドア・セミクロスシートの中之島線直通優等車両



新塗装 8 0 0 0 系車内 (シートをリニューアル)

(参考)

京阪特急の歴史について

京阪特急はわが国が戦後の荒廃から立ち直りつつあった昭和25年(1950年)に運転を開始しました。現在のカラーデザインが定まったのは昭和26年(1951年)に特急用車両として登場した1700形からで、上半分が黄色(マンダリン・オレンジ)で下半分が赤色(カーマイン・レッド)のツートンのボディカラーは当時としては珍しく、同じ頃に流行したアロハ・シャツにちなんで「アロハ特急」との異名がつけました。また、昭和27年(1952年)には京阪特急のシンボルである鳩マークを標識に採用、さらに昭和29年(1954年)には京阪特急のもうひとつの代名詞である「テレビカー」を導入して今日のイメージを確立しました。その後、平成7年(1995年)には旧3000系に「ダブルデッカー車両(2階建て車両)」を新造・増結するなど、さらなる魅力向上を図り、現在では特急用車両8000系の全編成に「ダブルデッカー車両」を連結しています。

以 上